



発行日 2012年4月25日 第29号

発行 札幌歯科医師会口腔医療センター
〒064-0807
札幌市中央区南7条西10丁目
TEL (011) 512-9497
FAX (011) 511-2272

<http://www.dnet.or.jp/center>

E-mail omc-s@dnet.or.jp

発行人 葺崎 健三郎
発行責任者 藤田 一雄

ぱるす



ある患者さんの
作品です

～ 救急診療部からのお知らせ～

夜間の歯の痛みなど、救急処置を目的としています。継続的な治療は受けられませんのでご注意ください。

診療のご案内

診療時間 : 19:00～23:00

受付開始時刻 : 18:30

年中無休

電話番号 : (011)511-7774

～障がい者診療部からのお知らせ～

障がい者診療部は完全予約制になっております。

診療のご案内

予約時間 : 火～金 9:15～17:15

診療時間 : 月 14:00～17:00

火～土 9:30～17:00

金 9:00～17:00

(午前中は全身麻酔下診療)

電話番号 : (011)512-9497

こんにちは（*^_^*）救急診療部です

救急診療部部長 隅田恭介

こんにちは。救急診療部の隅田恭介と申します。今回は、私が担当しております口腔医療センターのもう一つの顔、夜間救急診療についてご紹介します。口腔医療センターには障がいを持った患者さんを治療する診療室と、夜間や休日に突然歯が痛くなったり不調を訴える患者さんを治療する夜間救急診療室があります。夜間救急診療は、1973年（昭和48年）、全国に先駆け札幌市民の夜間休日における歯の痛み、不安を解消するために始まりました。現在でも、年中無休で夜間救急診療を行っている歯科医師会運営の医療施設は日本中にわずかしかなく、設立当時から1日も休むことなく診療が続けられています。

さて、障がい者診療が終了して後片付けを始める時間になると、今度は夜間救急診療室のスタッフが午後7時から始まる診療に向け準備を始めます。これから午後11時まで、歯の痛みや腫れ・転んで歯が折れた・血が止まらない等、不安な顔で患者さんが飛び込んできますが、私たち救急診療部スタッフは、患者さんがリラックスして治療を受け、安心していただけるよう常に微笑みを絶やさず、親切な対応を心がけております。おかげさまで、口腔医療センターは北海道・札幌市のご協力をいただきながら、今年で開設39周年を迎えることができました。昨年度（2011年）は、延べ3200人以上が夜間救急を受診され、最近では札幌市民や旅行に来た他府県、海外からの患者さんも増えてきました。皆さんも夜間や休日に、お口に関して何か困ったことがございましたら、どうぞ遠慮なくご利用下さい。本日も、年中無休で診療しております。



典子ちゃんとの時間

北海道大学大学院歯学研究科 口腔病態学講座 歯科麻酔学教室 渋谷 真希子

典子ちゃんとは、全身麻酔前検査の時に初めてお会いしました。当時、歯科治療を受けることがなかなかできなかった典子ちゃん。彼女が安全に全身麻酔を受けるには設備の整った高次医療施設への紹介が必須である、と判断せざるを得ない状況でした。でも、典子ちゃん親子としては、他の施設に行くのはなるべく避けたい・・・その状況を理解した典子ちゃんは、「歯の治療はここで受けねばならぬ」と決心した模様で、その日をきっかけに今まで出来なかったことが次々にできるように！治療の様子を見ていた衛生士さん達とお母さんの大変驚いた様子がとても印象的でした。

局所麻酔の注射はちょっぴり苦手だけれど、今では納得できたらさせてくれるまでになりました。私が何より嬉しいのは、彼女が嫌がることなく口腔医療センターに通ってくれていることです。「癒しキャラ」の典子ちゃんとの時間は、私にとっても楽しみなひと時なんです。

彼女が作ってくれた、まさに一糸乱れぬ「刺し子」の作品（右下写真）は、センター内の障がい者診療部の待合室に飾ってありますので、お立ち寄りの際は是非ご覧になってください。





典子ちゃんとの出会い

障がい者診療部主任歯科衛生士 竹内聖子

私が典子ちゃんと出会ってから、もう何年経ったでしょうか。

出会った当初は、歯科受診が怖くて、クリーニングや治療がなかなかうまくできないこともありましたよね。そんな典子ちゃんもあつという間に高校生となり、身長は私を軽々と追い越していました。

ある時、どうしても麻酔が必要な治療を行わなければならなくなった時、お母様も含め、いろいろ考えた結果、全身麻酔での治療を選択することとなりましたが、そのために、どうしても越えなければならないことが1つ出てきました。周囲にも協力していただき努力したのですが、どうしても越えることができないまま時間が過ぎていき、歯も心配になってきました。そのような状況や、お母様、そして私たちスタッフの心配を典子ちゃんも敏感に感じていたのでしょう。診療を担当している先生が「典子ちゃん、やってみようか。」の一言に、典子ちゃんが「やる。」との返事が！！そこから、数回のトレーニングを重ね、ついにお口の中の麻酔をクリアし、歯を削ることや歯の型を採ることもでき、新しい歯を入れることができたのです。

今でも典子ちゃんは定期的にチェックを受けに来ています。むし歯をつくらないようにしているのはもちろんですが、あのトレーニング前にはあまり得意ではなかった器械を使用したクリーニングも余裕でできるようになり、すっきりして帰っています。その姿は本当に落ち着いており、一緒に頑張ってみてよかったなと心から思っています。

典子ちゃん、あの時、決心して頑張ってくれてありがとう。これからもずっとよろしくね。



訪問歯科診療講習会開催される

口腔医療センター企画研修部 安部 圭太郎

高齢者の歯科治療を安全で効果的に行うため、「訪問診療の現場や診療所で役立つ高齢者歯科診療の知識」と題しまして訪問診療研修会が企画され、今回は札幌歯科医師会地域医療部・口腔医療センターの合同企画として2月28日（火）午後7時より札幌歯科医師会5階大講堂において開催されました。注意すべき高齢者と歯科とのかかわり、特にがん治療、心疾患治療、肺炎と歯科とのかかわりについては口腔医療センター企画研修部副部長の及川 透先生が、難症例が多い高齢者の義歯治療については部長の中澤 潤先生が担当しました。口腔医療センター所員・担当医17名、一般会員73名、会員スタッフ37名、センター職員6名の合計133名の参加がありました。

生活習慣や食事はもちろん、様々な健康情報には多くの人が関心をもって、若々しく豊かな人生を望みます。実際に日本人は世界一長生きの国のひとつです。しかし、生活の質（QOL）から考えてみますと現実にはお口の不健康のせいで厳しい毎日を送っている方が多く、私たち歯科医療に携わる者の責務は重大であると再認識しました。

高齢者の歯科口腔ケアのニーズは約200万人以上といわれていますが、現実には歯科医療サービスが高齢者をカバーできているのはまだほんのわずかです。高齢者の死亡原因に「肺炎」が上位にあるのは、もちろん抵抗力低下による他者からの感染等もありますが、実は自分の口腔内の細菌を誤嚥（ごえん）して肺炎になる誤嚥性肺炎のケースが多いのです。また高齢者の場合、合わない入れ歯で我慢したり、歯がないままで放置したり、口の中を清潔にすることをおろそかにしがちです。ご家族や周りの人もよく注意を払って、定期的に歯科医の診断・治療・口腔ケアを受けるように心がけてあげてください。